

PATENT APPLICATION

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of	:	Hiromichi TAKADA, Shigeki ITO, Hideki YAMAUCHI and Kazunori KURACHI
Serial no.	:	
Filed	:	
For	:	COLOR CARD, COLOR BOOK COMPRISING THE SAME, AND COLOR CARD WITH PICTURE SAMPLE
Group Art Unit	:	
Examiner	:	
Docket	:	ADACHI P247US

The Commissioner for Patents  
P. O. Box 1450  
Alexandria, VA 22313-1450

**SUBMISSION OF CERTIFIED COPIES**

Dear Sir:

A claim for priority is hereby made under the provisions of 35 U.S.C. § 119 for the above-identified United States Patent Application based upon Japanese Patent Application Nos. 2002-188827 filed June 28, 2002, JP 2002-206548 filed July 16, 2002 and JP 2002-248061 filed August 28, 2002, respectively. A certified copy of each Japanese application is enclosed herewith.

In the event that there are any fee deficiencies or additional fees are payable, please charge the same or credit any overpayment to our Deposit Account (Account No. 04-0213).

Respectfully submitted,



Michael J. Bujold, Reg. No. 32,018

Customer No. 020210

Davis & Bujold, P.L.L.C.

Fourth Floor

500 North Commercial Street

Manchester NH 03101-1151

Telephone 603-624-9220

Facsimile 603-624-9229

E-mail: [patent@davisandbujold.com](mailto:patent@davisandbujold.com)

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日  
Date of Application:

2002年 6月28日

出 願 番 号  
Application Number:

特願2002-188827

[ST.10/C]:

[JP2002-188827]

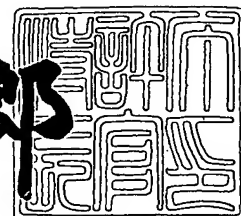
出 願 人  
Applicant(s):

菊水化学工業株式会社

2003年 1月31日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3002460

【書類名】 特許願

【整理番号】 46P04

【提出日】 平成14年 6月28日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G09F 5/00

【発明者】

    【住所又は居所】 岐阜県各務原市松本町二丁目 4 5 7 番地 菊水化学工業  
株式会社内

    【氏名】 高田 博道

【発明者】

    【住所又は居所】 岐阜県各務原市松本町二丁目 4 5 7 番地 菊水化学工業  
株式会社内

    【氏名】 伊藤 茂樹

【特許出願人】

    【識別番号】 000159032

    【氏名又は名称】 菊水化学工業 株式会社

    【代表者】 遠山 昌夫

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 019943

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 カラーカード及びそれらを組合せたカラー見本帳

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 3 以上の複数の色見本を並べて示したカラーカードであって

その示された複数の色見本の中で、最も薄い色を示す淡色色見本が他の色を示す色見本の面積よりも大きいことを特徴とするカラーカード。

【請求項 2】 前記淡色色見本的一方には、カラーカード内にある色の中で最も濃い色を示す濃色色見本を配置し、

これとは異なる方には、前記淡色と濃色の中間的な色を示す中間色色見本を配置されたものを構成要素に持つことを特徴とする請求項 1 に記載のカラーカード。

【請求項 3】 最も薄い色の淡色色見本的一方には、カラーカード内にある色の中で最も濃い色を示す濃色色見本を配置し、これとは異なる方には、前記淡色色見本と濃色色見本の中間的な色を示す中間色色見本を配置し、その色見本の中で淡色色見本が他の色を示す色見本の面積よりも大きいカラーカードであって、

前記濃色色見本及び／又は中間色色見本が複数色示され、その示された複数色の濃色色見本及び／又は中間色色見本により構成された濃色表示部及び／又は中間色表示部を形成し、

その形成された表示部内にある複数の色見本が淡色色見本の該当表示部のある端部側から離れるにしたがって、濃色表示部及び／又は中間色表示部内で濃い色を表示することを特徴とするカラーカード。

【請求項 4】 請求項 1 ないし請求項 3 のいずれかに記載のカラーカードを複数枚組合せたことを特徴とするカラー見本帳。

【請求項 5】 前記複数枚組合せが淡色色見本、濃色色見本及び中間色色見本のいずれかの色見本の色から受ける印象ごとにグループ化したものであることを特徴とする請求項 4 に記載のカラー見本帳。

【請求項 6】 さらに、前記グループ化されたグループ別カラー見本帳を複

数のグループ別カラー見本帳により構成させたことを特徴とする請求項 4 又は請求項 5 に記載のカラー見本帳。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、建築物などの構造物の塗装に用いられる塗料について、その塗料から得られる色調を示し、それらの色調から希望する色を選択するためのカラーカード及びそれらを組合せたカラー見本帳に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来から、カラーカードやカラー見本帳による色調の提案、選択を行ない、塗料の乾燥硬化した後の色を決定していることが多い。このカラーカードの多くは、マンセル値などにより数値化し、その数値化し、その数値を記号化し、その記号を色の見出しとして用い、その記号順に表示したものが多くある。

【0003】

このマンセル値は、色を色相、明度、彩度に区分し、それぞれを数値化し表したものである。このように色を記号として表したことにより、その記号によりある程度特定した色を選択することができる。つまり、色に付与されている記号が分かればその色をある程度特定することができるものである。

色に付与された記号により色を特定することができるため、色調を表現する場合に、「～っぽい色」「～のような色」などのあいまいな表現を用いることなく、個人差がなく適確に色を特定することができる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

ところが、色を数値化し、記号化して並べたカラーカードやカラー見本帳は、その記号により色を特定するには、たいへん優れたものであるが、希望する色を適確に選択することが困難な場合がある。これは、色を数値化し、その値から順に並べてあるため、色調の濃淡の違いなどによる色調の微差により表示される色調数が多くなる場合がある。

また、色調から受けるイメージ毎に分けられたものではなく、色を数値により並べることにより、似ている色調がカラーカードやカラー見本帳内で隣り合わせることが多く、希望する色を適確に選択することが困難な場合がある。

## 【 0 0 0 5 】

この発明は、上記のような従来技術に存在する問題点に着目してなされたものである。その目的とするところは、カラーカード内にある最も薄い色調で、塗装される被塗装物に付与する色調のイメージを大まかに選択し、大まかに選択した色調と同じカラーカード内にある色調により、色を決定することができるカラーカードを提供することにある。

## 【 0 0 0 6 】

## 【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために、請求項 1 に記載の発明のカラーカードは、3 以上の複数の色見本を並べて示したカラーカードであって、その示された複数の色見本の中で、最も薄い色を示す淡色色見本が他の色を示す色見本の面積よりも大きいものである。

## 【 0 0 0 7 】

請求項 2 に記載の発明のカラーカードは、請求項 1 に記載の発明において、前記淡色色見本の一方には、カラーカード内にある色の中で最も濃い色を示す濃色色見本を配置し、これとは異なる方には、前記淡色色見本と濃色色見本の中間的な色を示す中間色色見本を配置されたものを構成要素に持つものである。

## 【 0 0 0 8 】

請求項 3 に記載の発明のカラーカードは、最も薄い色の淡色色見本の一方には、カラーカード内にある色の中で濃い色を示す濃色色見本を配置し、これとは異なる方には、前記淡色と濃色の中間的な色を示す中間色色見本を配置し、その色見本の中で淡色色見本が他の色を示す色見本の面積よりも大きいカラーカードであって、前記濃色色見本及び／又は中間色色見本が複数色がされ、その示された複数の色の濃色色見本及び／又は中間色色見本により構成された濃色表示部及び／又は中間色表示部を形成し、その形成された表示部内にある複数の色見本が淡色色見本の該当表示部のある端部側から離れるにしたがって、濃色表示部及び

／又は中間色表示部内で濃い色を表示するものである。

【 0 0 0 9 】

請求項 4 に記載の発明のカラー見本帳は、請求項 1 ないし請求項 3 のいずれかに記載のカラーカードを複数枚組合せたものである。

【 0 0 1 0 】

請求項 5 に記載の発明のカラー見本帳は、請求項 4 に記載の発明において、前記複数枚組合せが淡色色見本、濃色色見本及び中間色色見本のいずれかの色見本の色から受ける印象ごとにグループ化したものである。

【 0 0 1 1 】

請求項 6 に記載の発明のカラー見本帳は、請求項 4 又は請求項 5 に記載の発明において、さらに、前記グループ化されたグループ別カラー見本帳を複数のグループ別カラー見本帳により構成させたものである。

【 0 0 1 2 】

【発明の実施の形態】

以下、この発明の実施形態を詳細に説明する。

この発明は、3 以上の複数の色見本を並べて示したカラーカードであって、その示された複数の色見本の内、最も薄い色調を示す淡色色見本が他の色を示す色見本の面積よりも大きいものである。

このカラーカードは、1 枚のカラーカードに 3 以上の複数の色見本を並べらものであり、塗料が乾燥硬化した後に形成される塗膜の色調を選択、確認などを行なうものである。つまり、塗料により塗装される被覆物の塗装により得られる色調を選択及び得られた色調を確認するためのものである。

【 0 0 1 3 】

得られた色が塗装前に選択した色と同じであることを確認する場合では、カラーカードに複数の色調を示す必要はないが、塗装前に色調を選択する場合、カラーカードに 1 色の色見本のみ示されているものでは、複数の色見本が示されているカラーカードに比べ、多くの枚数のカラーカードが必要となることになる。

この発明に記載されたカラーカードは、主として、塗装前に色調を選択するものであるため、多くの色見本が示されているカラーカードが良く、3 以上の色見

本が示されているものであることが必要である。3以上の色見本が示されていることにより色相が同じであるものであっても、明度が異なる色を示すことができる。つまり、同一の色相の濃色色見本、淡色色見本及び中間色色見本を1枚のカラーカードに示すことができるものとなる。

## 【0014】

色は、例えば、色相、明度及び彩度により表現されるものである。主に、淡色、濃色の区別は、明度と彩度が影響するものである。この明度とは、色の明るさを表すもので、彩度は、色の鮮やかさを表すものである。明度が低い場合は、黒っぽい色調のものを指し、高いものは、白っぽい色調を指す。彩度が少ない場合は、黒っぽいくすんだ色調のものを指し、大きいものは、鮮やかな色調のものを指す。

この発明では、明度の高さにより、低いものを濃色、高いものを淡色として区別を行ない、明度の高さが同じである場合には、彩度の大きさに、少ないものを濃色、大きいものを淡色として区別を行なうものである。カラーカードを作成する際には、1枚のカラーカードに示す色を決める。その決められた色のうち、明度の最も高い色を淡色色見本に、低いものを濃色色見本に特定し、明度が同じであれば、彩度の少ないものを濃色、大きいものを淡色とする。そして、その中間的な色調を中間色色見本とする。この中間色色見本は、淡色と濃色との間に位置するものであれば任意に決めることができる。

## 【0015】

カラーカードに示された複数の色見本の内、最も薄い色を示す淡色色見本が他の色調を示す色見本の面積よりも大きいものであることにより、希望するイメージに合う色を的確に選択することができる。つまり、淡色によりイメージに近い色調を大まかに選んで、その大まかに選択した色調が示されたカラーカードを選択する。そのイメージに近い色調があるカラーカードを選択した後に、そのカラーカード内にある色調からイメージに合う色を選択し、決定することができる。

## 【0016】

濃色色見本によりイメージに近い色調を選択した場合では、色調の違いを比較することは、簡単であるが、印象深い濃色を最初に選択することで、その選択し



た色調より薄い色調のものを選択することが難しいことが多い。それに比較して、淡色色見本によりイメージに近い色調を選択した場合では、色調の違いを判断することは、やや難しい面もあるが、淡色を最初に選択することにより、その選択した色調より濃い色調のものを選択することの方が簡単であり、そのことで、色の選択の幅が広がることになる。

## 【 0 0 1 7 】

さらに、淡色色見本によりイメージに近い色調を選択することは、建築物などの構造物は、多くの場合、周りの環境などを考慮し、淡色を基本として選択することが多い。

また、カラーカードに示された複数の色見本の内、この淡色は、濃色及び中間色に比べ、色調が薄いため、他の色の影響を受け、見劣りするため、淡色を選択することが難しいことになる。そのため、淡色色見本の面積をカラーカード内で相対的に大きくすることにより、他の色見本にある色の影響を受け難くすることができる。

## 【 0 0 1 8 】

さらに、中間色色見本と濃色色見本とを比較した場合、中間色色見本の面積が濃色色見本の面積より大きいことが好ましい。そのことにより、濃色の影響を受けることが少ないカラーカードとなる。

選択決定する色は、実際、建築物などに付与する色調より、1段階程度の濃い色を選択決定することが好ましい。これは、建築物などの大きい面積に色調を付与する場合には、色見本など小面積で示された色調より薄い色調になったように感じる人が多いためである。

## 【 0 0 1 9 】

次に、この発明のカラーカードの実施形態を図面に基づいて詳細に説明する。

この発明のカラーカードは、矩形状のものであることが好ましい。矩形状であることにより、カラーカードの作成、保管、輸送などの効率が向上することがある。また、色見本の形状は、特に制限はないが、矩形状のものが好ましい。色見本の形状を矩形状にすることにより色見本の面積の違いが判り、矩形状のカラーカード内に効率的に示すことができる。

## 【0020】

図1は、矩形の色見本を矩形状カラーカードに配置した一例を示したものである。カラーカード11の中央部には、他の色見本より面積の大きい淡色色見本12を配し、一方には、濃色色見本13、これとは異なる方には、淡色と濃色の中間的な色を示した中間色色見本14を配置したものである。この中間色色見本14は、濃色色見本13と比較して、面積が大きいものである。

## 【0021】

このような形態のカラーカード11を複数枚用意し、まず、面積が大きい淡色色見本12によりイメージに近い色調を大まかに選んで、カラーカード11を選択する。選択されたカラーカード11には、少なくとも濃色色見本13と中間色色見本14及び淡色色見本12の3種類の色見本があり、その中からイメージに合う色を選択し、決定する。

また、色見本の配置は、図1に示したもののだけではなく、図2に示したようなカラーカードの形態であっても良く、淡色色見本12を中心に配置したものであれば良い。このような形態にすることにより、淡色色見本と他の色見本を比較することが簡単にでき、イメージに合う色の選択決定が容易なものとなる。

## 【0022】

各色見本間の隙間15を設けることが好ましい。隙間15を設けることにより、各色見本の境界がはっきりし、カラーカードにある複数の色を区別することが容易なものとなる。また、この隙間15の色は、そのカラーカードにない色であれば良く、淡色、濃色の区別のない、白色などが好ましい。また、透明であっても良い。

## 【0023】

また、カラーカードの端に空白部16を設けることが好ましい。この端にある空白部16は、カラーカードを手で触る場合などに利用することができ、カラーカードにある色見本に触れることなくカラーカードを扱うことができる。カラーカードに手などで頻繁に触れたことにより手垢などで色見本が汚れることがあり、その色に変化することがある。

## 【0024】

また、複数枚のカラーカードを綴じる場合にも用いることができる。この空白部 16 をカラーカードの綴じ代とすることにより、色見本を傷つけることなく綴じることができる。

このように空白部 16 を利用することができるため、2箇所以上あることが好ましいことになる。2箇所以上あることにより、1つの空白部 16 を利用してカラーカードを複数枚の綴じたカラー見本帳を作成した場合、もう1つ以上の空白部 16 を利用してカラーカードを扱うことができる。

#### 【0025】

さらに、図3には、濃色色見本 13a～13c、中間色色見本 14a～14c の複数の色見本を並べ、濃色表示部 17 及び中間色表示部 18 を形成させたカラーカードを示す。

このカラーカードに示されている7色のうち最も薄い色の色見本を淡色色見本 12 とし、最も濃い色の濃色色見本 13c 及び中間の色の中間色色見本 14c を特定する。この中間色見本 14c と中間色見本 14c から淡色色見本 12 の間の色を中間色表示部 18 に表示し、中間色色見本 14a、中間色色見本 14b とする。また、濃色色見本 13c と濃色色見本 13c から中間色見本 14c の間の色を濃色表示部 17 に表示し、濃色色見本 13a、濃色色見本 13b とする。

#### 【0026】

この濃色表示部 17 には、濃色色見本 13a～13c の3種類の色見本により構成されるものである。これら3種類の色見本のうち、淡色色見本 12 の一方に隣接する濃色色見本 13a が濃色表示部 17 にある濃色色見本 13a～13c のうちで一番薄い色のものである。

そして、濃色色見本 13a に隣接する濃色色見本 13b は、濃色色見本 13a より濃く、濃色色見本 13c より薄い色のものであり、濃色色見本 13c が濃色色見本 13a～13c のうちで一番濃い色のものである。つまり、複数の濃色色見本 13a～13c が淡色色見本端部側から離れるにしたがって、濃色表示部内 17 で濃い色を表示するものである。

#### 【0027】

また、中間色表示部 18 には、中間色色見本 14a～14c の3種類の色見本

により構成されるものである。これら3種類の色見本のうち、淡色色見本12の濃色色見本表示部17と異なる一方に隣接する中間色色見本14aが中間色表示部18にある中間色色見本14a~14cのうちで一番薄い色のものである。

そして、中間色色見本14aに隣接する中間色色見本14bは、中間色色見本14aより濃く、中間色色見本14cより薄い色のものであり、中間色色見本14cが中間色色見本14a~14cのうちで一番濃い色のものである。つまり、複数の中間色色見本14a~14cが淡色色見本端部側から離れるにしたがって、中間色表示部内18で濃い色を表示するものである。

#### 【0028】

図3に示されたカラーカード11は、淡色色見本12の一方に濃い色を示す濃色色見本を配置し、これとは異なる方には、前記淡色と濃色の中間的な色を示す中間色色見本を配置し、その色見本の中で淡色色見本12が他の色を示す色見本の面積よりも大きいカラーカードであり、濃色色見本13a~13c及び中間色色見本13a~13cが複数色を並べ示され、その複数色の濃色色見本13a~13c及び中間色色見本14a~14cにより構成された濃色表示部17及び中間色表示部18を形成し、その形成された表示部内にある複数の色見本が淡色色見本の該当表示部のある端部側から離れるにしたがって、濃色表示部17及び中間色表示部14a~14c内で濃い色を表示するものであるもので、カラーカード11の中心にある淡色色見本12から外側に向かって段階的に濃い色の色見本を示すことになり、見やすいカラーカードであり、色見本が重なることなく示すことができるものである。

#### 【0029】

このようなカラーカードにすることにより、1つのカラーカードに多くの色調を示すことができる。

また、複数枚のカラーカード11から面積が大きい淡色色見本12によりイメージに近い色調を大まかに選んで、カラーカード11を選択した後、そのカラーカード11にある淡色色見本12を中心とし、その淡色より濃い色調を順に選択することができ、イメージに合う色を適切に決定することができる。

#### 【0030】

図 3 に示したカラーカード 1 1 を複数枚組合せたカラー見本帳を図 4 に示す。

このカラー見本帳は、複数枚のカラーカード 1 1 を止め具 1 9 により綴じたものである。このように複数枚のカラーカードをまとめることにより、多くのカラーカードを持ち運びが容易なものとすることができ、多くの色調から色の選択が容易にできるものとなる。

#### 【 0 0 3 1 】

図 4 に示されたカラー見本帳は、カラーカードの端にある空白部 1 6 のほぼ中央部の 1 箇所を止め具 1 9 により綴じたものである。この止め具 1 9 の位置は、特に制限があるものではないが、カラーカードにある空白部 1 6 にあれば良く、このように綴じることにより、色見本を傷つけることなく綴じることができる。

また、1 箇所だけで綴じることにより、図 4 に示したように複数のカラーカード 1 1 を扇状に広げることができ、見易く、色の選択が容易なものとなる。

#### 【 0 0 3 2 】

カラー見本帳を構成する複数のカラーカードは、任意に選択したものでも良いが、淡色色見本、濃色色見本及び中間色色見本のいずれかの色見本の色から受ける印象ごとにグループ化したものが好ましい。

このように色から受ける印象ごとにグループ化することにより、色の選択が迅速に行なうことができることがある。このグループは、赤系、青系などのように色調の系統別としたもの、ナチュラル、モダン、クラシックなどと言った雰囲気我代表するもの、中間色彩、くすみ系の色彩、明るい色彩などと言った色調の明るさ別にしたものなどがある。

#### 【 0 0 3 3 】

このように色から受ける印象ごとにグループ別見本帳を用いることにより、前もってイメージしている色調から受ける印象によりカラー見本帳を選択することができるため、色の選択及び決定が容易で、速いものとなる。

また、上記のようなグループ別見本帳を複数集めたものであることがより好ましい。このようにすることにより、前もって色調のイメージがない場合には、より多くの色調がイメージ別にグループ化されているため、まず、イメージによりある程度の色調を絞り込み、そのグループを決め、決められたグループにある複

数のカラーカードの淡色色見本により大まかに色調を選択し、その淡色色見本により選択したカラーカードにある色調から、イメージとした色を効率的で、適確に決定することができるものである。

## 【0034】

この複数のグループ別カラー見本帳は、各グループ別カラー見本帳を止め具などにより1つにまとめた形態や別々にあるグループ別カラー見本帳を1つの容器に収めた形態などがある。この形態については、利用者が適宜選択することができるものである。

## 【0035】

以上のように、この実施形態によれば次のような効果が発揮される。

・ 3以上の複数の色見本を並べて示したカラーカードであって、その示された複数の色見本の内で、最も薄い色を示す淡色色見本が他の色を示す色見本の面積よりも大きいものであることにより、カラーカード内にある薄い色調で、塗装される被塗装物に付与する色調のイメージを大まかに選択し、大まかに選択した色調と同じカラーカード内にある色調により、色を決定することができるものである。

## 【0036】

また、淡色によりイメージに近い色調を大まかに選んで、その大まかに選択した色調が示されたカラーカードを選択し、そのカラーカード内にある色調からイメージに合う色を選択し、決定することができるので、希望するイメージに合う色を的確に選択することができる。

さらに、カラーカードに示された複数の色見本の内、この淡色は、濃色及び中間色に比べ、色調が薄いため、他の色の影響を受け、見劣りするため、淡色を選択することが難しいことになる。そのため、淡色色見本の面積をカラーカード内で相対的に大きくすることにより、他の色見本にある色調の影響を受け難くすることができる。

## 【0037】

・ 前記淡色色見本の一方には、カラーカード内にある色の中で最も濃い色を示す濃色色見本を配置し、これとは異なる方には、前記淡色色見本と濃色色見

本の中間的な色を示す中間色色見本を配置されたものを構成要素に持つものであることにより、淡色色見本と他の色見本を比較することが簡単にでき、イメージに合う色の選択決定が容易なものとなる。

【 0 0 3 8 】

・ 最も薄い色の淡色色見本的一方には、カラーカード内にある色の中で濃い色を示す濃色色見本を配置し、これとは異なる方には、前記淡色と濃色の中間的な色を示す中間色色見本を配置し、その色見本の中で淡色色見本が他の色を示す色見本の面積よりも大きいカラーカードであって、前記濃色色見本及び／又は中間色色見本が複数色が示され、その示された複数色の濃色色見本及び／又は中間色色見本により構成された濃色表示部及び／又は中間色表示部を形成し、その形成された表示部内にある複数の色見本が淡色色見本の該当表示部のある端部側から離れるにしたがって、濃色表示部及び／又は中間色表示部内で濃い色を表示するものであることにより、1つのカラーカードに多くの色調を示すことができる。

【 0 0 3 9 】

また、面積が大きい淡色色見本によりイメージに近い色調を大まかに選んで、そのカラーカードにある淡色色見本を中心とし、その淡色より濃い色調を順に選択することができ、イメージに合う色を適切に決定することができる。

さらに、淡色色見本から離れるにしたがって段階的に濃い色の色見本を示すことになり、見やすいカラーカードであり、色見本が重なることなく示すことができるものである。

【 0 0 4 0 】

・ 請求項1ないし請求項3のいずれかに記載のカラーカードを複数枚組合せたものであることにより、多くのカラーカードを持ち運びが容易なものとすることができ、多くの色調から色の選択が容易にできるものとなる。

【 0 0 4 1 】

・ 前記複数枚組合せが淡色色見本、濃色色見本及び中間色色見本のいずれかの色見本の色から受ける印象ごとにグループ化したものであることにより、前もってイメージしている色調から受ける印象によりカラー見本帳を選択することが

できるため、色の選択及び決定が容易で、速いものとなる。

【 0 0 4 2 】

・ 前記グループ化されたグループ別カラー見本帳を複数のグループ別カラー見本帳により構成させたものであることにより、前もって色調のイメージがない場合には、より多くの色調がイメージ別にグループ化されているため、まず、イメージによりある程度の色調を絞り込み、そのグループを決め、決められたグループにある複数のカラーカードの淡色色見本により大まかに色調を選択し、その淡色色見本により選択したカラーカードにある色調から、イメージとした色を効率的で、適確に決定することができるものである。

【 0 0 4 3 】

・ 中間色色見本の面積が濃色色見本の面積より大きいものであることにより、濃色の影響を受けることが少ないカラーカードとなる。

・ 前記カラーカードが矩形状のもので、色見本の形状が矩形状のものであることにより、カラーカードの作成、保管、輸送などの効率が向上するものであり、また、色見本の面積の違いが判り、矩形状のカラーカード内に効率的に示すことができるものである。

【 0 0 4 4 】

・ 前記カラーカードの各色見本間に隙間を設けることにより、各色見本の境界がはっきりし、カラーカードにある複数の色調を区別することが容易なものとなる。

・ 前記カラーカードの端に空白部を設けることにより、色見本に触れることなくカラーカードを扱うことができる。また、複数枚のカラーカードを綴じる場合にも用いることができ、色見本を傷つけることなく綴じることができるものである。

【 0 0 4 5 】

次に、前記実施形態から把握できる技術的思想について以下に記載する。

・ 中間色色見本の面積が濃色色見本の面積より大きいものであることを特徴とする請求項 1 ないし請求項 3 のいずれかに記載のカラーカード。

このことにより、濃色の影響を受けることが少ないカラーカードとなる。



【 0 0 4 6 】

前記カラーカードが矩形状のもので、色見本の形状が矩形状のものであることを特徴とする請求項 1 ないし請求項 3 のいずれかに記載のカラーカード。

このことにより、カラーカードの作成、保管、輸送などの効率が向上するものであり、また、色見本の面積の違いが判り、矩形状のカラーカード内に効率的に示すことができるものである。

【 0 0 4 7 】

【発明の効果】

この発明は、以上のように構成されているため、次のような効果を奏する。

請求項 1 に記載の発明のカラーカードによれば、カラーカード内にある薄い色調で、塗装される被塗装物に付与する色調のイメージを大まかに選択し、大まかに選択した色調と同じカラーカード内にある色調により、色を決定することができるものである。

【 0 0 4 8 】

請求項 2 に記載の発明のカラーカードによれば、請求項 1 に記載の発明の効果に加え、淡色色見本と他の色見本を比較することが簡単にでき、イメージに合う色の選択決定が容易なものとなる。

請求項 3 に記載の発明のカラーカードによれば、1つのカラーカードに多くの色調を示すことができ、また、面積が大きい淡色色見本によりイメージに近い色調を大まかに選んで、そのカラーカードにある淡色色見本を中心とし、その淡色より濃い色調を順に選択することができ、イメージに合う色を適切に決定することができる。

【 0 0 4 9 】

請求項 4 に記載の発明のカラー見本帳によれば、多くのカラーカードを持ち運びが容易なものとすることができ、多くの色調から色の選択が容易にできるものとなる。

請求項 5 に記載の発明のカラー見本帳によれば、請求項 4 に記載の発明の効果に加え、前もってイメージしている色調から受ける印象によりカラー見本帳を選択することができるため、色の選択及び決定が容易で、速いものとなる。

【 0 0 5 0 】

請求項 6 に記載の発明のカラー見本帳によれば、請求項 4 又は請求項 5 に記載の発明の効果に加え、前もって色調のイメージがない場合には、より多くの色調がイメージ別にグループ化されているため、まず、イメージによりある程度の色調を絞り込み、そのグループを決め、決められたグループにある複数のカラーカードの淡色色見本により大まかに色調を選択し、その淡色色見本により選択したカラーカードにある色調から、イメージとした色を効率的で、適確に決定することができるものである。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 カラーカードの一例

【図 2】 カラーカードの一例

【図 3】 濃色表示部及び中間色表示部を形成させたカラーカードの一例

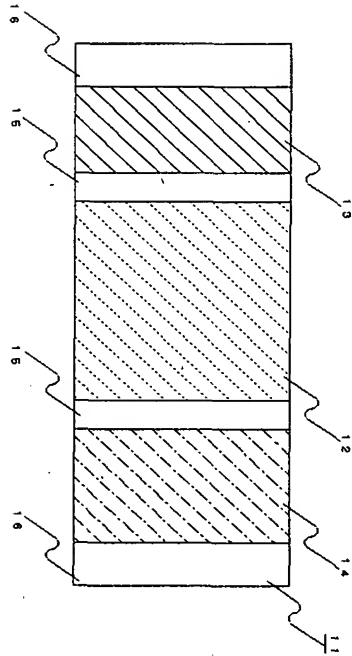
【図 4】 図 3 に示したカラーカードを複数枚組合せたカラー見本帳

【符号の説明】

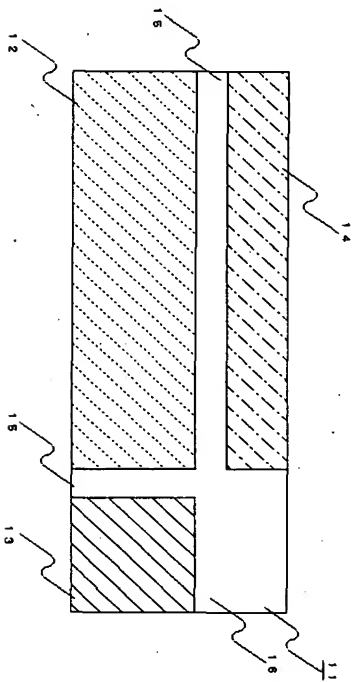
1 1 … カラーカード。 1 2 … 淡色色見本。 1 3 … 濃色色見本。 1 4 … 中間色色見本。 1 5 … 隙間。 1 6 … 空白部。 1 7 … 濃色表示部。 1 8 … 中間色表示部。 1 9 … 止め具。

【書類名】 図面

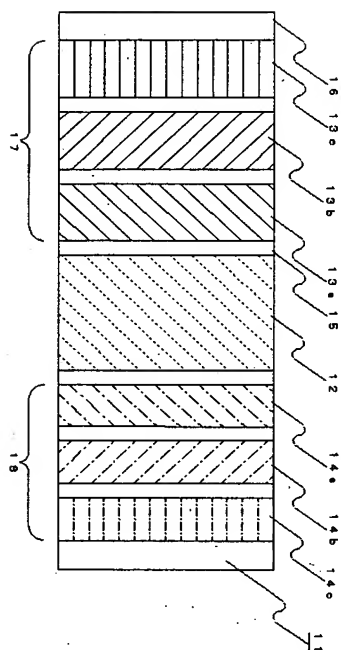
【図 1】



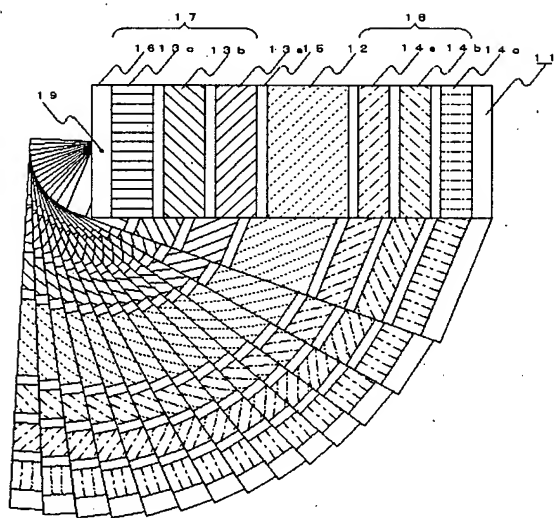
【図 2】



【図3】



【図4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 カラーカード内にある薄い色調で、塗装される被塗装物に付与する色調のイメージを大まかに選択し、大まかに選択した色調と同じカラーカード内にある色調により、色を決定することができるカラーカードを提供する。

【解決手段】 3以上の複数の色見本を並べて示したカラーカード11であって、その示された複数の色見本の中で、薄い色調を示す淡色色見本12が他の色調を示す色見本の面積よりも大きいものである。

また、前記淡色色見本12の一方には、カラーカード11内にある色の中で濃い色を示す濃色色見本13があり、これとは異なる方には、前記淡色色見本12と濃色色見本13の中間的な色を示す中間色色見本14があるものである。

【選択図】 図1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000159032]

1. 変更年月日 1999年 1月25日

[変更理由] 住所変更

住 所 愛知県名古屋市中区丸の内二丁目7番24号 小塚ビル  
氏 名 菊水化学工業株式会社